令和８年度介護予防に係るＫＤＢ等データ分析事業 取組み内容・実施結果

| 分類 | 分析番号 | 分析テーマ | 目的 | ○月 | ○月 | ○月 | ○月 | ○月 | ○月 | ○月 | ○月 | ○月 | ○月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護認定のプロセスに関する分析 | ① | 地区別お引き認定率・認定後サービス利用までの期間と地区別定量データ（定量情報：高齢化率、人口密度 等）、定性データ（山間部、市街地 等）との関連分析 | 地区別のお引き認定率や認定後のサービス利用開始までの期間と地域特性との関係を明らかにすることで、地域特性に応じた施策の検討に役立てる | | | | | | | | | | |
| | ② | 初回要介護認定時の年齢・要介護度 | 要介護認定を受ける人の特徴から要介護認定につながりやすい状態の特定<br>・初回に要介護度が下がる場合の健康状態の変化や取組の特徴の抽出 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 初回要介護認定の直近1か月の疾病罹患状況 | | | | | | | | | | | |
| | ④ | 要介護度が下がる人の割合 | | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | ・MCI受診率と認知症罹患率との関係 | MCI受診の効果測定<br>（MCI受診率の高い地域は、認知症罹患率が低い？） | | | | | | | | | | |
| | ⑥ | ・通いの場参加者と非参加者との認知症罹患率の関係 | 通いの場の認知症予防の効果測定 | | | | | | | | | | |
| 介護予防のためのプロセス指標＆アウトカム指標の関連性分析 | ⑦ | ・握力測定データの「握力」と、後期高齢者質問票の転倒の有無の関連性 | 握力の体力測定データのうち、転倒・骨折の予測に有効な項目の特定<br>・握力と転倒、骨折の時間関係の提示 | | | | | | | | | | |
| | ⑧ | ・握力測定データの「握力」「ISI」と、骨折との関連（全ての体力測定データについて、より詳細の骨折状況を検証） | ・握力と骨折との関連が明らかになれば、ハイリスクアプローチに活用できる | | | | | | | | | | |
| | ⑨ | ・通いの場参加者と未参加者との医療介護費分析（対実績当市町） | 通いの場の効果測定 | | | | | | | | | | |
| | ⑩ | ・短期集中サービスの利用による健康状態の改善状況及び翌年度の要介護認定等の変化率の分析 | ・健康状態の改善につながりやすい短期集中サービスの利用者像の特定及び活動内容の検討 | | | | | | | | | | |
| | ⑪ | ・短期集中サービスの利用後の活動内容の違いによる健康状態の悪報の差異の可視化 | ・短期集中サービスによる健康状態改善を維持するためのフォローの取組の検討 | | | | | | | | | | |
| 二次性骨折の要因分析（基礎資料の収集） | ⑫ | ・初回骨折の対象者の追跡調査<br>（二次性骨折に至る人と至らない人の生活要因や筋力等の健康状態の変化の差分分析から基礎資料を得る） | ・初回受折の対象者に対して、骨折時の状況の調査を行うとともに、定期的な健康状態の調査を実施 | | | | | | | | | | |
| 令和7年度作成の要介護度判定ツールの検証 | ⑬ | ・要介護度ツールによるハイリスク者の実態の健康状態の確認によるツールの有効性検証 | ・作成したツールにデータを入力・リスク度を判定し、ハイリスク者に対して実際の健康状態の確認を実施<br>・リスク者の支援による重症化予防の有効性を検証<br>・支援に介入による効果対象のデータとも活用可 | | | | | | | | | | |

※分類、分析内容は柔軟です為も、調査内容に基づき有効者と協議の上実施。